

分野別意見交換会報告書【総務常任委員会】

日 時： 令和元年(2019 年) 8 月 23 日(金) 19 時 00 分～20 時 40 分

場 所： 箕面市役所3階 委員会室

団 体 名： 地区防災委員会委員長
(萱野・東・萱野東・豊川北・豊川南・萱野北・彩都の丘小校区)

出席議員： 神田委員長、藤田副委員長、林委員、神代委員、中嶋委員、尾崎委員、楠委員

傍聴者数： 0 人

テーマ①:地区防災委員会の取り組みや地域の課題について(昨年の災害を受けて)

番号	項目	内容
1	地区防災委員会の取り組みや地域の課題について(昨年の災害を受けて)	取り組み ① 1月の市内一斉訓練と11月に独自に訓練を行う。(避難所の立ち上げ訓練を開催予定) 課 題 ① 「避難行動要支援者名簿」について、発災時に初めて提供されるがそれでは迅速な対応ができない、よって平時から自治会等避難支援者に提供し住所などの確認をしておけば、より迅速な救護・支援ができる。 ② 安否確認実施の際には、ヘルメットの着用は必要と考える(防災委員・自治会等の役員への配付を!!) ③ 地域に即した情報の提供と訓練計画の実施。
		取り組み ① 粟生団地 404 世帯で管理組合の下部団体として防災委員会を立ち上げた。 ② 毎年、独自で常時 4 つの訓練(応急手当、初期消火、煙体験、炊き出し訓練)に加え、昨年度は警察や消防署に協力いただき訓練を実施(はしご車等のデモンストレーション)。… 昨年は、地震による被害は少なかったが、豪雨・台風による被害が大きかった。日常の取り組みとして、HUG 訓練を行ったが、初めての取り組みとして、対応の難しい避難者への対応(ペット等含む)を行った。 ③ 感震ブレーカー、カセットコンロ発電機、LED 発電機、LED ヘッドライトの購入、給水塔の給水栓の工事などの実施。 ④ 管理組合総会前に世帯状況のアンケートを実施している。それをデータ化して安否確認に役立てようとしている。 課 題 ① 各自治会、管理組合等への防災意識の向上を図ることが難しい(役員の交代が頻繁で意識が低い)。また、分譲マンションなどはプライベート優先の造り(エレベータ等の造りなど)であり、今後どのように安否確認を定着させていくかが課題。

番号	項目	内容
1	地区防災委員会の取り組みや地域の課題について(昨年の災害を受けて)	萱野東小 校区 取り組み ① 地元自治会の代表者で構成しており、年1回の自主訓練と市の防災訓練を行っている。 課題 ① コミュニティーの向上が防災意識の向上に繋がり、挨拶が最大の防災である(過去の震災の経験より)。よって、コミュニティーの向上をどのように行っていくかが大切であり、課題だと感じている。
		豊川北小 校区 取り組み ① 毎年役員が交代するため、立ち上げ時(通常9月)に非常に苦勞する。個々の意識の違いにより非常に難しい。 ② 地区防災委員会とは別に、自主防災組織があるが、昨年の経験から発災時に駆けつけられないのが現実である。 ③ 要支援者の方の把握が難しい。 ④ 避難・防災気象情報が非常にわかりにくいいため、市民にとってわかりやすい情報発信対応が必要(平時の訓練経験が重要)。 ⑤ 新しい自治会に対し、永続的な活動ができるように行政からの指導をお願いしたい。
		豊川南小 校区 取り組み ① 避難所運営活動と消火救助活動が必要であるが前者しか出来ない。普段からのHUG研修が重要であると認識して取り組んでいる。 ② 民生委員が救護援護班にあたっているが、高齢者の安否確認などで実際には機能することが難しいのではないかと思います。班編成を変更している。 ③ 市のマニュアルを実態に即して見直しを行っている。 ④ 外国人支援班を独自に編成し、外国人用の対応マニュアルの作成も行った。 課題 ① 外国人に関する問題は言葉、宗教、食事などの違いと、地震に対する知識がない事。 ② 昨年の経験から、大阪大学での受け入れ体制を構築している。 ③ 地区防災委員会に対する認識が少ないため、認知度を高める必要がある。 ④ 避難所の損壊があった為、避難所自体の耐震点検が必要である。
		萱野北小 校区 課題 ① ライフラインの復旧に差があったため、復旧方法について対策が必要。
		彩都の丘 小校区 取り組み ① 担い手が少なく各団体との兼務では機能するのが難しいため、兼務をしていない人間で地区防災委員会を構築。 ② 地区防災委員会として、グループラインを構築(役員交代後も残留) ③ 地域の祭りを利用して、地区防災委員会としての啓発を実施。 ④ 役員の皆さんには3日間の防災備蓄を依頼。 ⑤ 防災だよりの作成・配付。 課題 ① 新しいまちであり若い世帯も多く、役割分担が明確に決まっていない(誰に何を聞けばよいか分からない)。 ② 地区防災委員会に対して、更なる助成をお願いしたい。

※取り組みの記載のないところはそれぞれ同等の取り組みを行っている。

◆各校区の取り組み・課題を踏まえての自由意見

番号	項目	内容
2	各校区の取り組み・課題を踏まえての自由意見	豊川北小 ①特徴として、消防団が深く関わってくれ、有事の際には最大限に活躍している(本庁了承済み)。 ②旧村を中心とした防災組織、第二住宅を中心とした防災組織があり、様々な行事に参加している。地形的に山から谷まで非常に広い地域であるため、避難所までの距離があり、箕面市外の地域との連携が必要となる(大阪大学、茨木市など)また、高齢者へのサポートも必要である。 神代委員 それぞれ地域の特性を生かした活動がある。課題は、防災意識の向上と地区防災委員会活動の持続性が必要という事であり、かつ行政との連携が必要という事。少しでも認知度を上げるために地域行事に地区防災委員会が出ていくことが必要。 萱野東小 箕面市の子どものハザードマップコンテストを行なってはいかがでしょうか？親子で協力し合うことにより、防災の意識を高めることができる。 豊川南小 災害関係に詳しい方がおり、国土地理院の地図によって地域の脆弱性の確認ができるとの事。ハザードマップは現在のものであるため、太古からの地層についても行政として研究を進めていただきたい。 東小 災害が起きた時に、避難所を開設できるか否かが不安である。南海トラフ地震が30年間のうちに起こる確率が向上している中で、避難所開設に関して訓練も必要だが、行政のほうの支援もお願いしたい。 豊川南小 避難所の開設に関しては、地区防災委員会の中では動いていないところが実際はある。行政として地区防災委員会に求めていることをはっきりさせることが必要であると考え、地区防災委員会の役割の再確認をさせていただく中で今後の活動方針を定めていきたい。 萱野小 ①消防の管制室にいた経験から、119番の通報が入ってくる所は被害が少ない、逆に何の通報もないところにスタッフの派遣が必要である。 ②市のスタッフが発災時に本当に機能するかが不安、それも含めて、実際に即した訓練・確認が必要。 豊川北小 ①個人の経験であるが、阪神淡路大震災の時に、発災後6時間後に現地に行った。当時はすぐに避難所は開けることが出来なかったが、それぞれのやり方で避難所に入った。結局は隣近所の方との繋がりが重要であると感じている。当時は2ヶ月ほど現地にとどまった。人間の気持ちの繋がりをつけるのが地区防災委員会の役割と思う。そのためには行政の支援も必要であろう。人間の意識改革が必要である。

テーマ②地区防災において市と市議会に望むこと

番号	項目	内容
1	地域防災において市と市議会に望むこと	萱野北小 ・極論であるが、災害が起これば、地区防災委員会のメンバーが何人揃うかわからないのが現実であろうし、議員の皆さんもやはり状況は同じと思う。よって、発災時については校区内の仕事をしてもらうことが必要。 ・地域特性により、避難所への避難行動などが遅延しないように、地域の条件を少しでも平準化する為にハード面を改善してもらいたい。 豊川南小 ・行政スタッフの増員をお願いしたい、そうなれば非常に心強い。 ・地区防災委員会の認知度が低い中で、避難所運営や地域への認知度の向上に関して、地区防災会だよりを配布したらいいかと思う、そのための予算を増額してほしい。 萱野北小 ・地区防災会議にオブザーバーとして出席していただきたい。 豊川北小 ・予算の増額、市の職員の意識改革、市のスタッフの増員をお願いしたい。

※議会としての災害に対する今後の方向性の説明(中嶋委員より)

中嶋委員より“議会の災害時の対応について”の検討状況の説明。

1・災害時の議会運営について

法律上は想定されていないために、大きな災害が起こった場合に、議会開催の可否のルール作りが必要であるためマニュアルを作成中。

2・災害時に議会が地域においてどのように行動して(関わって)いくのか？

箕面市で災害が起こった場合、超法規的な組織が災害対策本部である。その際、議会は一民間組織と同じ取り扱いとなる。しかしながら、その中でどんな関わりができるかの検討を行なっている。それぞれの地域に議員がいるという事が強みであり、地域の現状を集約できるので議会として集約し、災害対策本部に双方向で伝えていくことが必要であると考えている。例えば、ライフラインの復旧など…。又、地区防災委員会の情報交換を活性化させる役割を担う事ができるとも思っている。今後は、それらの事も含めて、専門的な作業部会で集中して議論していく予定である。

【発災後・発災中・復興におけるそれぞれの役割を以下のとおり取りまとめ中である】

- ① 議会としての体制構築
- ② 市・市民との情報共有、議長と市長との情報共有
- ③ 箕面市を3つにエリア分けをし、居住している議員が自主的に状況を吸い上げる(議会の本部に伝達)
- ④ 各校区の情報の繋ぎを行うことが必要である(伝達機能を持つことが重要)

以 上